# 令和5年度入学生対象

別記様式1

## 主専攻プログラム詳述書

開設学部(学科)名[医学部保健学科 看護学専攻]

 取得できる学位 学士(看護学)

### 2. 概要

本プログラムは、幅広く深い教養を基盤に、豊かな人間性と高い倫理観を養い、専門職となるための基礎的知識と技能及び態度を修得し、課題発見・解決力と協働力を備えた、社会の人々に信頼される看護実践者を育てることを目指している。さらに科学的思考力と創造力に富む、将来の看護学の発展に寄与できる看護学研究者を育成することを目指している。

3. ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針・プログラムの到達目標)

本プログラムでは、看護専門職者としての基礎的知識、技能、態度を修得し、さらには科学的思考力と創造性を発揮できる人材を養成する。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士(看護学)」の学位を授与する。

- 1) 看護の基盤となる人間・健康・環境・看護実践理論を理解し、必要な知識を習得する。
- 2)援助的関係を形成するために必要な能力を習得する。
- 3) 看護実践において科学的に判断し、計画的に実施する能力を習得する。
- 4) 看護実践において生命や人の尊厳を重視し、人権を擁護する倫理的判断能力を習得する。
- 5) 看護職者として、特定の健康課題に対応する実践能力を習得する。
- 6)他職種と連携・協働し、保健医療福祉組織における看護職者としての役割を果たす実践基礎能力を習得する。
- 7) 看護学の発展に寄与する専門職者として研鑽し続けるための基本姿勢を習得する。
- 4. カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

本プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、 実践する。

第1ステップ:1年次で、「豊かな人間性と幅広い教養、専門科目を支える教養教育科目」「人間の心身の機能に関する専門基礎科目」「看護実践の基礎となる専門科目」を履修し、複眼的な視野で広範な教養を育むとともに、健康と看護について深く探求するための基礎的知識を習得する。

第2ステップ:2年次に、「疾病の予防、発症、治癒に関する専門基礎および専門科目」「健康と環境に関する専門科目」「看護基礎技術に関する専門科目」「ヘルスケアシステムに関する専門科目」の科目群を中心に学習を進め、看護学に関する専門知識や人々との援助的関係を形成するために必要な能力を深める。

第3ステップ:3年次第1·2タームに、「個人と家族、地域の健康問題と看護に関する専門科目」を履修し、看護実践者として科学的に判断し計画的に実施するための基礎的能力を育成する。

第4ステップ:3年次第3・4タームと4年次第1・2タームで、「看護実践上の判断能力を習得するための臨地実習」を 履修し、看護実践者に必要な基礎的能力と、保健医療福祉組織の中で他職種と連携・協働し、看護職者としての役 割を果たす実践基礎能力を育成する。また、4年次第1~4タームでは、「卒業研究」を通して、より包括的に看護学を 考究し、問題の発見と解決に向けた探求の基本姿勢を育成する。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、各教育プログラムで設 定する到達目標への到達度の2つで評価する。

## 5. 開始時期 · 受入条件

1年次より開始

### 6. 取得可能な資格

看護師国家試験受験資格

保健師コースを選択した場合、保健師国家試験受験資格 助産師コースを選択した場合、助産師国家試験受験資格

養護教諭コースを選択した場合、養護教諭一種免許状

# 7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。(履修表を添付する。)

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

### 8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4、A=3、B=2、C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」、「優秀(Very Good)」、「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S (秀:90点以上)	4
A(優:80~89点)	3
B (良:70~79点)	2
C (可:60~69点)	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00~4.00
優秀(Very Good)	2.00~2.99
良好(Good)	1.00~1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

### 9. 卒業論文(卒業研究)(位置づけ、配属方法、時期、評価基準等)

位置付け:看護に関して追求しようとする課題を明確にし、仮説もしくは独自の構想をデータや資料によって実証または記述する過程を踏むことを通して、科学的探求の基本的なプロセスを理解し、論文作成の基本的技術を習得する。

配属方法:学生が、自ら目指す研究テーマを考え、自ら指導教員を選ぶ。

指導教員には、看護学専攻教員があたる。なお、他専攻(作業療法学、理学療法学)教員を指導教員として選択することも可能である。

時期等:4年次

評価基準:卒業論文の評価は、次に定める評価基準に基づいて評価するとともに、関連する科目の成績評価基準に含める。

## I 論文の審査項目

- 1) 看護学専門領域における学士としての基礎的知識を修得しており、問題を把握し解明する基本的な能力を身につけているか。
- 2) テーマの設定が学士として妥当なものであり、論文作成にあたっての問題意識が明確であるか。
- 3) 論文の記述(本文、図、表、引用など)が適切であり、論理的に妥当な結論が導かれているか。
- 4) 設定したテーマに際して、適切な調査・実験方法、あるいは論証方法を採用し、それに則って具体的な分析・考察がなされているか。

### 10. 責任体制

PDCA責任体制 (計画(plan)・実施(do)・評価 (check)・改善 (action)) 看護学専攻会議、保健学科会議、医学部教授会においてその構成員により実施している。

# 別表第1 2023 教養教育科目履修基準表 2023

## 医学部保健学科看護学専攻

<u> </u>						<b></b>						履修	年	次	(注1)		
区 分		禾	4 目 [	区 分		要修得 単位数		単位数	履修区分	1 4	手次	2年	<b>手</b> 次	3 4	<b>手</b> 次	4 <sup>£</sup>	<b>手</b> 次
										前	後	前	後	前	後	前	後
	平		和	科	目	2		2	選択必修			0					
	大基		学 教	育	入門	2	大学教育入門	2	必修	0							
	学科育目	教	養	ゼ	Ę	2	教養ゼミ	2	必 修	0							
		展	開	ゼ	3.	(0)		1	自由選択	0	0						
		領	域	科	目	8	人文社会科学系科目群から2科目4単位以上 自然科学系科目群から2科目4単位以上	1又は2	選択必修	0	0						
				コミュ	ニケー	2	コミュニケーション基礎 I	1	必修	0							
				ション	基礎	2	コミュニケーション基礎Ⅱ	1	业 修		0						
		<b>人</b>	英語		ニケー	2	コミュニケーションIA	1	- 必 修	0							
		国	(注2)	ション	I	2	コミュニケーションIB	1	必修	0							
教	共			コミュ	ニケー	2	コミュニケーションⅡ A	1	必修		0						
養	\3Z	語		ション	I	2	コミュニケーションⅡ B	1	业 修		0						
教	通	科					ベーシック外国語 I	1		0							
育	科		初修外国 (ドイツ	国語 (注2 )語,フラ		(0)	ベーシック外国語Ⅱ	1	自由選択	0							
			語,中国 1 言語選		うちから	(0)	ベーシック外国語Ⅲ	1	日田選扒		0						
科	目						ベーシック外国語IV	1			0						
目							情報・データ科学入門	2	必修	0							
		情報・		サイエン 主3)	ンス科目	2	ゼロからはじめるプログラミング	2	選択必修		0						
						2	データサイエンス基礎	2	医扒奶修		0						
		健 康	スポ	ーッ	7 科 目	(0)		1又は2	自由選択	$\circ$	0						
		社	会 連	携	科目	(0)		1又は2	自由選択	0	0						
						2	医療従事者のための心理学(注4)	2	必修		0						
						2	統計学	2	選択必修		0						
		基	生 盤 🥫	科目		2	ヘルスサイエンスのための基盤数学	2	医扒奶修	$\circ$							
						2	初修物理学	2	選択必修	0							
						<u> </u>	初修生物学	2	(注5)	0							
	必值		選択 必	修科	目 小 計	30											
計	自	由選	表 択 🦻	科目	小 計	8	(注6)										
	教	養教	有	科目	合 計	38											

- 注1: ○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により開設期が異なる場合があるので、学生便覧の教養教育開設授業科目一覧で確認すること。
- 注2: 短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「オンライン英語演習 I」, 「オンライン英語演習 II」, 「オンライン 英語演習 II」, 「オンライン II」, 「オンラン II」, 「オンターン II」, 「オンラン II」, 「オンラン II」, 「オンターン II」, 「オ
- 注3:「情報・データ科学入門」の単位を修得できなかった場合のみ、「ゼロからはじめるプログラミング」「データサイエンス基礎」の修得した単位のうち2単位を、「情報・データ科学入門」の単位として卒業に必要な単位に算入できる。
- 注4: 「医療従事者のための心理学」の単位を修得できなかった場合のみ、「心理学概論A」又は「心理学概論B」の履修により修得した単位を、「医療 従事者のための心理学」の単位の修得として卒業に必要な単位(2単位)に算入することが可能である。
- 注5:「初修物理学」,「初修生物学」の単位を修得すべき者は、保健学科において卒業要件科目として指定する。なお、指定のない者は、各自でいずれか1科目を選択し、履修すること。
- 注6: 自由選択科目は、展開ゼミ、要修得単位数を超えて修得した領域科目、初修外国語、情報・データサイエンス科目、健康スポーツ科目、及び履修 基準表に記載されていない基盤科目、社会連携科目の中から合計8単位以上を修得すること。「初修物理学」「初修生物学」のうち卒業要件科目以 外の科目を修得しても、自由選択科目の単位に算入することはできない。
- (注) 養護教諭一種免許状を取得しようとする者は、領域科目の「日本国憲法」2単位、及び健康スポーツ科目から2単位を修得すること。

## 専門教育科目履修基準表

医学部保健学科看護学専攻

	科 科	健学科看護学専攻						履修	年 次			
区八	月月	授 業 科 目	単位数	履修指定	1年	 F次	2年	<u>履 修</u> F次		 F次	4年	 F次
分	区分	\$ /k	1 122 300	/IX IS 14 /C	前	後	前	後	前	後	前	後
		人間発達学	2	必修		2						
		解剖生理学 I	2	必修	2							
		解剖生理学Ⅱ	2	必修		2						
	専	微生物学・免疫学	2	必修			2					
	門	栄養学	2	必修			2					
	77	病理学	2	必修			2					
		臨床薬理学	2	必修			2					
		臨床生化学	1	必修				1)				
		臨床病態学 I	2	必修			2					
		臨床病態学Ⅱ	1	必修			1					
	科	健康管理論	2				2					
	目	社会福祉学	2					2				
		保健英語	1	(選択)			1					
		Introduction to Epidemiology and Population Sciences	2	(選択)			<u> </u>	2				
		Global Health and Current Public Health Issues	2	(選択)					2			
ŀ		成人健康障害看護	2						2			
		老年健康障害看護	2					2	J)			
		小児健康障害看護	2		1		1	2				<del>                                     </del>
		周産期健康障害看護	1	 业修	1		+	1			<del> </del>	<del>                                     </del>
		特神健康障害看護	2	 业修			+	<u>u</u>	2			
		看一种是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一	2	必修 必修	2		+	-	4		-	<del>                                     </del>
		看護夫践子原論 看護技術学・基礎演習	2	必修 必修	(a)		2	1			<del> </del>	<del>                                     </del>
			_				4	<u></u>				<del>                                     </del>
		看護技術学・応用演習	2	必修	+			2				
		ヘルスアセスメント	1	必修	+		1					
		看護診断方法論演習	1	必修				1				
専		臨床看護シミュレーション演習	1	<u> 必修</u>	-				1			<del> </del>
		看護管理学概論	2	必修	1		-				2	<del>                                     </del>
		チーム医療と医療安全	1	必修				1				
門		災害医療と看護	1	必修				1				
		Nursing in Global Health	2	必修				2				
教		基礎看護学実習 I	1	必修			1)					
		基礎看護学実習Ⅱ	2	必修				2				
		総合実習	2	必修							2	
育		多職種間連携教育	1	(選択)							1	
		カウンセリング演習	1	(選択)					1			
科		成人看護学概論	2	必修			2					
	専	成人看護方法演習	2	必修					2			
_	•	老年看護学概論	2	必修			2					
目	門	老年看護方法演習	1	必修					1			
	, ,	小児保健学	1	必修			1					
	科	小児看護学概論	1	必修			1					
		小児看護方法演習	1	必修					1			
	目	母性看護学概論	1	必修		1						
		リプロダクティブヘルスとセクシュアリティ	1	必修		1						
		母性看護方法演習	1	必修				1				
		精神看護学概論	2	必修			2					
		精神看護方法演習	1	必修					1			
		地域保健看護学概論	1	必修		1						
		地域包括ケア論	2	必修			2					
		地域・在宅看護論	1	必修				1				
		地域・在宅看護方法演習	2	必修							2	
		地域·在宅看護実習 I	2	必修				2				
		地域・在宅看護実習Ⅱ	2		1						2	
		成人看護学実習 I (急性期・クリティカルケア)	2							2		
			_		1		+	1		<u>J</u>	<u></u>	<del>                                     </del>
		成人看護学実習Ⅱ(慢性期)	2	<u> </u>							2	<u> </u>
		リハビリテーション看護実習	2	必修						2		
		老年看護学実習	2	 必修	1		1			2		
		小児看護学実習	2	 必修	1		1	<u> </u>		2	<u> </u>	
		母性看護学実習	2	 必修			1			2		
		精神看護学実習	2	 必修	1		1	<u> </u>		2		
		相作有度于天自 Independent Study	2	 (選択)	1							2
					1		+					<del>-</del>
		研究方法論	1	必修			1				1)	
ı		卒業研究	3	必修	1	ı	Ī	I		1	(	3

L,	科口							履修	年 次			
区分	目区	授業科目	単位数	履修指定		<b>F</b> 次		三次		三次		三次
),	分				前	後	前	後	前	後	前	後
		保健統計学	2	(選択)					2			
		疫学	2	(選択)					2			
	専	保健政策論	2	(選択)						2		
専	7	公衆衛生看護学概論	1	(選択)				1				
7	門	公衆衛生看護学 I	2	(選択)					2			
門		公衆衛生看護学Ⅱ	2	(選択)					2			
+//.	科	公衆衛生看護学Ⅲ	2	(選択)							2	
教		学校保健概論	1	(選択)			1					
育	目	学校保健演習	2	(選択)						2		
'		基礎助産学	2	(選択)					2			
科		地域子育て支援論	2	(選択)					2			
目	専門	月基礎科目 開設単位数 必修:22単位 選択:5単	位 要履	修単位数 必修	: 22単	位						
	専門	月科目 開設単位数 必修:73単位 選択:24単	単位  要原	覆修単位数 必修	多:73単	位						
		専門教育科目計	95			-	-	-	-	-	-	_
		卒業要件単位数	133									

- 注1: 実習科目の履修は、所定の授業科目の単位を取得していない場合、許可されないことがある。
- 注2: 保健師国家試験を受けようとする者は、専門基礎科目及び専門科目に掲げる必修科目のほか、以下に示す保健師国家試験受験資格取得に必要な履修科目にある選択科目を全て履修しなければならない。
- 注3: 助産師国家試験を受けようとする者は、専門基礎科目及び専門科目に掲げる必修科目のほか、以下に示す助産師国家試験受験資格取得に必要な履修科目にある選択科目を全て履修しなければならない。
- 注4: 養護教諭の免許状を取得しようとする者は、「養護教諭免許取得に必要な履修科目(保健学科看護学専攻)」を参照のこと。

## 保健師国家試験受験資格取得に必要な履修科目 (保健学科看護学専攻)

12,	科							履修	年 次			
区分	目区	授業科目	単位数	履修指定	1年	F次	2年	三次	3年	三次	4年	三次
7,1	分				前	後	前	後	前	後	前	後
		保健統計学	2	(選択)					2			
		疫学	2	(選択)					2			
専		保健政策論	2	(選択)						2		
-11-		公衆衛生看護学概論	1	(選択)				1				
門		公衆衛生看護学 I	2	(選択)					2			
+v1.	車	公衆衛生看護学Ⅱ	2	(選択)					2			
教	門	公衆衛生看護学Ⅲ	2	(選択)							2	
育	科	公衆衛生看護方法演習	1	(選択)							1	
	目	保健活動評価演習	1	(選択)								1
科		公衆衛生看護管理	2	(選択)								2
目目		公衆衛生看護学実習 I	3	(選択)							3	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	2	(選択)							4	2
		学校保健概論	1	(選択)			1					
		学校保健演習	2	(選択)						2		

- 注1: 保健学科看護学専攻学生で、保健師国家試験受験資格を取得しようとする者は、教育課程に掲げた履修基準(教養教育科目、専門教育科目)の必修科目を含めて、上 記科目を必ず履修しなければならない。
- 注2: 上記の保健師課程科目については、公衆衛生看護方法演習、保健活動評価演習、公衆衛生看護学実習 I ・Ⅱ及び公衆衛生看護管理を除いて、保健師課程以外の学生も 履修できる。

## 助産師国家試験受験資格取得に必要な履修科目 (保健学科看護学専攻)

区	科							履修	年 次			
一分	目区	授業科目	単位数	履修指定		<b>F</b> 次	2年	次		三次	4年	三次
),	分				前	後	前	後	前	後	前	後
		基礎助産学	2	(選択)					2			
		地域子育て支援論	2	(選択)					2			
専		助産診断学	4	(選択)						4		
門	専明	助産実践論 I (妊娠・産褥・新生児期)	2	(選択)							2	
教育	科	助産実践論Ⅱ (分娩期基本)	2	(選択)							2	
科	目	助産実践論Ⅲ(分娩期応用)	2	(選択)							2	
目		助産疾病論	2	(選択)						2		
		助産管理	1	(選択)					·		1	
		助産学実習	11	(選択)					·			11

- 注1:保健学科看護学専攻学生で、助産師国家試験受験資格を取得しようとする者は、教育課程に掲げた履修基準(教養教育科目、専門教育科目)の必修科目を含めて、上記科目を必ず履修しなければならない。
- 注2: 上記の助産師課程科目については、基礎助産学及び地域子育て支援論を除いて、助産師課程以外の学生は履修できない。

	科目区分	授業科目	単位数	必要 単位数	履修年次	開講キャンパス
		コミュニケーションIA	1			
	外国語科目(英語)	コミュニケーションIB	1	2	1年次	霞
教業	八国四代日(天田)	コミュニケーションⅡA	1	۷	1十八	段
養教育		コミュニケーションⅡB	1			
	情報・データサイエンス科目	情報・データ科学入門 (又は情報活用演習)	2	2	1年次	霞 (東広島)
	領 域 科 目	日本国憲法	2	2	1年次	霞又は東広島
	健康スポーツ科目		2	2	1年次	霞又は東広島
		教職入門	2	2		霞
		教育の思想と原理	2	2		霞
		児童・青年期発達論	2	2	1~2年次	霞
		教育と社会・制度	2	2	1~2+1人	霞
		教育課程論	2	2		霞
		教育方法・技術論及び情報活用教育論	2	2		霞
	教職に関する	道徳教育指導法	2	2	1年次*	奇数年に霞で開講
	専門科目	特別活動指導法	2	2	2年次*	偶数年に霞で開講
専		生徒・進路指導論	2	2	1~2年次	霞
門教育		教育相談	2	2	1 2 千八	霞
育科		特別支援教育	1	1	2年次*	偶数年に霞で開講
目		総合的な学習の時間の指導法	1	1	1年次*	奇数年に霞で開講
		養護実習	5	5	4年次	広島大学の附属学校で実習
		教職実践演習 (注)	2	2	4年次	霞(医学部) で開講
	専門基礎科目	臨床薬理学	2	2	2年次	霞(医学部) で開講
	寸	微生物学・免疫学	2	2	2年次	霞(医学部) で開講
		公衆衛生看護学Ⅱ	2	2	3年次	霞(医学部) で開講
	専門科目	学校保健概論	1	1	2年次	霞(医学部) で開講
	   <del>  1</del>	学校保健演習	2	2	3年次	霞(医学部) で開講
		学校保健技術論	1	選択 科目	4年次	霞(医学部) で開講

- 1. 保健学科看護学専攻学生で、養護教諭一種免許単位を取得しようとする者は、教育課程に掲げた履修基準(教養教育科目、専門教育科目)の必修科目を含めて、上記科目を必ず履修しなければならない。
- 2. 「教職に関する専門科目」については、夏季休業期間等に霞キャンパスで医学部保健学科生用の昼間集中講義で開講する。2年 次終了までに履修すること。履修できないことが判明した時点で、できるだけ早く担当教員に相談すること。
- \* 2023年度(奇数年度)入学生適用年次
- (注) 教職実践演習(養護教諭) (4年次後期集中)の履修条件は,4年次前期に養護実習の履修手続を済ませ,教職実践演習の開始までに養護実習の単位を修得又は修得見込みであること。 4年次前期終了時点で養護実習が履修できておらず,4年次後期で教職実践演習と並行して養護実習を履修することとなった場合,教職実践演習の単位は,養護実習の単位が認定されることを条件として認定する。

## 看護学プログラムにおける学習の成果

評価項目と評価基準との関係

		学習の成果		評価基準	
		評価項目	極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
	(1)	一般教養に関する知識・理解	各科目の到達目標に基づいて行う試験において、他の項目と 関連付けて応用的な説明ができる。	各科目の到達目標に基づいて行う試験において、他の項目と 関連付けて説明ができる。	各科目の到達目標に基づいて行う試験において、基本的な説 明ができる。
知	(2)	心身の機能と環境に基づく健康、疾病の予防、発症、治癒に 関する知識・理解			
識	(3)	看護実践理論、看護の基本的技術と態度に関する知識・理解			
理 解	(4)	個人と家族、地域の健康問題と看護に関する知識・理解	看護学教育プログラムの到達目標に基づいて行う各科目の試験において、他の項目と関連づけて応用的な説明ができる。	看護学教育プログラムの到達目標に基づいて行う各科目の試験において、他の項目と関連づけて説明ができる。	看護学教育プログラムの到達目標に基づいて行う各科目の試験において、基本的な説明ができる。
	(5)	ヘルスケアシステムと看護職者間ならび他職種との協働に関 する知識・理解			
	(6)	看護倫理に関する知識・理解			
	(1)	根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力の知識と理解	②演習において、エビデンスに基づいた看護方法を対象の個別性を考慮して計画に応用できる。 ②演習において、基礎的知識を予習した上で、積極的かつ探	①演習において、エビデンスに基づいた標準的な看護方法を 計画できる。 ②演習において、積極的態度で臨み、学んだことを原理原則	②演習において、標準的な看護方法を計画することができる。 ②演習において、積極的態度で臨み、学んだことを原理原則
	(2)	健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力の知識と理解	求的態度で臨み、学びを深めて展開することができる。 ③レポート作成においては、事象を客観的に評価・考察し、 さらに今後の課題についても客観的に考えることができる。	に基づいて応用することができる。 ③レポート作成においては、事象を客観的に評価・考察することができる。	に基づいて展開することができる。 ③レポート作成においては、事象を客観的に記述することができる。
能力・技能	(3)	根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力の展開	①臨床・臨地において必要な看護実践技能を、自立して、安全かつ正確に実行することができる。 ②利用者の特性やニーズを総合的に捉え、個別的な看護過程 を展開することができる。 ③利用者に対する看護実践を評価し、評価結果を別の利用者 に対して活かすことができる。	① 臨床・臨地において必要な看護実践技能を、看護職者の助 つもとに、安全かつ正確に実行することができる。 ② 利用者の特性やニーズを総合的に捉え、標準的な看護を計 画のうち一部は個別性を考慮して実施することができる。 ③ 利用者に対する看護実践を利用者の反応を踏まえて振り返 ることができる。	①臨床・臨地において必要な看護実践技能を、看護職者の補助のもとに、安全かつ正確に実行することができる。 ②利用者の特性とニーズを分析し、標準的な看護を計画することができる。 ③自分の実践を客観的に振り返ることができる。
	(4)	健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力の展開 *利用者:看護実践の場における看護サービスの利用者。患者、相談者、地域住民など包含する。	①利用者に関する看護過程ではエビデンスに基づいた看護方法を、計画に応用できる。 ②基本的な原理原則をふまえた上で、利用者の個別性を考慮して実践できる。また、常に探求的態度で臨み、実践後には客観的評価し、計画の追加修正を行うことができる。 ③看護職者に助言を求め、ディスカッションすることができる。	①利用者に関連したエビデンスに基づいた標準的な看護方法 を説明できる。 ②基本的な原理原則をふまえ、利用者の個別性に配慮して実 設できる。 ③看護職者に助言を求めることができる。	①利用者に関連した標準的な看護方法を説明できる。 ②基本的な原理原則に基づいて実践できる。 ③看護職者に自分が計画した内容を伝えることができる。
総	(1)	生命・看護倫理に対する判断力	問題や課題に気づき、適切な対処行動がとれる。	問題や課題について、分析することができる。	問題や課題について気づくことができる。課題の分析過程を 知り、課題の所在を知る方法を知っている。
合的な	(2)	チームの一員として他者・多職種と連携し協働する能力と態 度	各職種の役割を理解した上で、利用者のニーズ充足に必要な職種を考え、適切に働きかけることができる。	各職種の役割を理解した上で、適切に働きかけることができる。	チームの一員であることを認識して行動することができる。
ъ́	(3)	研究能力および自己研鑽力	自分の現状を的確に把握し、専門職者として成長するための 課題に取り組むことができる。	自ら学ぶ姿勢を有し、向上心をもって行動できる。	問題に気づき、解決するための手段を考え、実践できる。

### 主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムにおける教養教育は、専門教育を受けるための学問的基盤作りの役割を担い、自主的・自立的態度の尊重、情報収集力・分析力・批判力を基礎にした科学的思考力の養成、ものごとの本質と背景を広い視野から洞察することのできる視座の確立、国際人として生きるにふさわしい語学力と平和に関する関心を強化し、幅広い知識を真に問題解決に役立つ知識体系へと統合するとともに、既成の枠を超えた学際的・総合的研究を開拓し推進する能力を養成することを目的とする。

評価項目と授	業科目との関係 I	I														ife	w /m:	7E D											力リ形 	T
					(1	.)	(:	2)	(3	知識。	·理解 (4	1)	()	5)	(6		平 価			能力・	技能 (3	)	(4	4)	(1	1)	総合的	内な力 2)	(3)	
科目区分	授業科目名	単位数	必修・ 選択 区分	開設期	一般教	養に関 識・理	心身の 境に基 康, 疾 防, 関す	幾能と環 づく健	看護集 論,看記 本的技	<ul><li>践理</li><li>横の基</li><li>術と態</li><li>する知</li></ul>	個人と地域の類と看言する知	家族, 健康問 護に関 職・理	ヘルス	ケアシ と看護  ならび  との協  する知	看護倫理	理に関 識・理 詳	根拠にき,看護画的に3	:基づ 隻を計 実践す の知識	健康疾病の保護 (健康疾病) (健康疾病) (健康疾病) (健康疾病) (健康) (健康) (健康) (健康) (健康) (健康) (健康) (健康	R 持増 所の予 所の回 いわる りの知	根拠に き, 看記 画的に3	基づ 関を計 実践す D展開	健康の疾性が復足しません。 (健康の疾性が) には (実践) にない こうしゅう しゅうしゅう しゅう	保持増 病の予 康の回 かわる	生命・	看護倫	チーム	の一員 也者・多 連携し る能力	研究能力および自己研鑽力	科目中の評価 項目の総加重 値
					科目中 の評価 項目の 加重値	評価項 目中の 加重値	科目中 の評価 項目の 加重値	評価項 目中の 加重値	科目中 の評価 項目の 加重値	評価項 目中の 加重値	科目中 の評価 項目の 加重値	評価項 目中の 加重値	科目中 の評価 項目の 加重値	評価項 目中の 加重値	科目中 の評価 項目の 加重値	日中の	が計画	日中の	1百日の 目	平価項 目中の 印重値	科目中 の評価 項目の 加重値	日中の	科目中 の評価 項目の 加重値	評価項 目中の 加重値	科目中 の評価 項目の 加重値	評価項 目中の 加重値	科目中 の評価 項目の 加重値	評価項 目中の 加重値	科目中 の評価 項目の 加重値	
教養教育科目		2	必修	1セメ	100	1	加里但		加里但		加里他		加里但		加里他		加里恒		加里旭	).	川里(世		加里恒		加里他		加里恒		加里恒	100
教養教育科目	平和科目 大学教育入門	2	選択必修	3セメ 1セメ	100	1																								100
教養教育科目	領域科目	8	選択必修	1・2セメ	100	1																								100
<u> </u>	コミュニケーション基礎 コミュニケーション I	2	必修 必修	1・2セメ 1セメ	100	1																								100
教養教育科目 教養教育科目	コミュニケーション II ベーシック外国語 I・II から2科目	2 各1	必修自由選択	2セメ 1セメ	100 100	1													_											100 100
教養教育科目	ベーシック外国語Ⅲ・IVから2科目	各1	自由選択	2セメ	100	1																								100
	情報・データサイエンス科目 健康スポーツ科目	4 1or2	選択必修自由選択	1・2セメ	100	1																								100
教養教育科目	社会連携科目	lor2	自由選択	1・2セメ	100	1																								100
教養教育科目教養教育科目	医療従事者のための心理学統計学	2	必修 選択必修	2セメ 2セメ	100	1													$\dashv$											100
教養教育科目	ヘルスサイエンスのための基盤数学	2	選択必修	1セメ	100	1																								100
	初修物理学 初修生物学	2	選択必修	1セメ	100	1									H				-											100
専門教育科目	人間発達学	2	必修	2セメ			50	1	30	1	20	1																		100
専門教育科目	解剖生理学 I 解剖生理学 II	2	必修	1セメ			100	1							H				-											100
	微生物学·免疫学	2	必修	3セメ			100	1																						100
専門教育科目	栄養学 病理学	2	必修	3セメ 3セメ			100	1											$\exists$											100
	臨床薬理学	2	必修	3セメ			100	1																						100
	臨床生化学 臨床病態学 I	2	必修	4セメ 3セメ			100	1																						100
専門教育科目	臨床病態学Ⅱ	1	必修	3セメ			100	1	0.0	4	0.0	4	00	4	0.0	4														100
	健康管理論 社会福祉学	2	必修	3セメ 4セメ			20 10	1	20 20	1	20 30	1	20 30	1	20 10	1														100 100
	保健英語	1 2	選択	3セメ 4セメ			100	1																						100
専門教育科目	Introduction to Epodemiology and Population Sciences Global Health and Current Public Health Issue	2	選択	5セメ			100	1																						100
	成人健康障害看護	2	必修	5セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1			$\Box$											100
専門教育科目 専門教育科目	老年健康障害看護 小児健康障害看護	2	必修 必修	4セメ 4セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1														100
	周産期健康障害看護 精神健康障害看護	1 2	必修 必修	4セメ 5セメ			20 20	1	20 20	1	20 20	1	20 20	1	20 20	1														100 100
	有种使尿障音看護 疫学	2	選択	5セメ			50	1	20	1	50	1	20	1	20	1														100
	看護実践学原論 看護技術学·基礎演習	2	必修 必修	1セメ 3セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1	50	1	50	1										100 100
	看護技術学·応用演習	2	必修	4セメ													50	1	50	1										100
専門教育科目 専門教育科目	ヘルスアセスメント 看護診断方法論演習	1	必修	3セメ 4セメ													50 50	1	50 50	1										100 100
専門教育科目	臨床看護シミュレーション演習	1	必修	5セメ													50	1	50	1										100
	看護管理学概論 チーム医療と医療安全	2	必修 必修	7セメ 4セメ					40 30	1			40	1	20 30	1			$\dashv$											100 100
専門教育科目	災害医療と看護	1	必修	4セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1														100
	Nursing in Global Health 基礎看護学実習I	2	必修	4セメ 3セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1	50	1	50	1										100
	基礎看護学実習Ⅱ	2	必修	4セメ													50	1	50	1										100
専門教育科目 専門教育科目	総合実習 多職種間連携教育	2	必修選択	7セメ 7セメ																					30	1	50 50	1	20 1 20 1	100 100
	カウンセリング演習	1	選択	5セメ							2.0				0.0										30	1	50	1	20 1	100
	成人看護学概論 成人看護方法演習	2	必修 必修	3セメ 5セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1	50	1	50	1										100
専門教育科目	老年看護学概論	2	必修 必修	3セメ 5セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1	50	1	50	1										100
	老年看護方法演習 小児保健学	1	必修	3セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1	50	1	50	1										100
	小児看護学概論 小児看護方法演習	1	必修 必修	3セメ 5セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1	50	1	50	1										100 100
	母性看護学概論	1	必修	2セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1	00	•	00	1										100
	リプロダクティブ ヘルスとセクシュアリティ 母性看護方法演習	1	必修 必修	2セメ 4セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1	50	1	50	1										100
専門教育科目	精神看護学概論	2	必修	3セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1		_												100
	精神看護方法演習 地域保健看護学概論	1	必修 必修	5セメ 2セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1	50	1	50	1										100 100
専門教育科目	地域包括ケア論	2	必修	3セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1														100
	地域·在宅看護論 地域·在宅看護方法演習	2	必修 必修	4セメ 7セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1	50	1	50	1										100
	地域・在宅看護実習Ⅰ	2	必修	4t×																	50	1	50	1						100
	地域・在宅看護実習 I 成人看護学実習 I (急性期・クリティカルケア)	2	必修 必修	7セメ 6セメ																	50 50	1	50 50	1						100
	成人看護学実習Ⅱ(慢性期)	2	必修	7セメ 6セメ											П						50 50	1	50 50	1						100
専門教育科目	リハビリテーション看護実習 老年看護学実習	2	必修 必修	6セメ 6セメ																	50 50	1	50 50	1						100 100
	小児看護学実習 母性看護学実習	2	必修 必修	6セメ 6セメ	$\vdash$										$\vdash \vdash$		$\Box$		-	-	50 50	1	50 50	1						100 100
専門教育科目	精神看護学実習	2	必修	6セメ																	50	1	50	1						100
専門教育科目 専門教育科目	Independent Study 研究方法論	2	選択	7・8セメ 7セメ											$\vdash$														100 1 100 1	100 100
専門教育科目 専門教育科目		3	必修選択	7・8セメ 5セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1													100 1	100 100
専門教育科目	保健政策論	2	選択	6セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1														100
	公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学 I	1 2	選択	4セメ 5セメ	<u> </u>		20 20	1	20 20	1	20	1	20 20	1	20 20	1			-		-									100 100
専門教育科目	公衆衛生看護学Ⅱ	2	選択	5セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1														100
-	公衆衛生看護学Ⅲ 公衆衛生看護方法演習	2	選択	7セメ 7セメ	$\vdash$		20	1	20	1	20	1	20	1	20	1	50	1	50	1										100 100
専門教育科目	保健活動評価演習	1	選択	8セメ													50	1	50	1										100
	公衆衛生看護管理 公衆衛生看護学実習 I	2	選択	8セメ 7セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1					50	1	50	1						100 100
専門教育科目	公衆衛生看護学実習Ⅱ	2	選択	7・8セメ																	50	1	50	1						100
専門教育科目 専門教育科目	基礎助産学 地域子育で支援論	2	選択	5セメ 5セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20 20	1			-											100 100
専門教育科目	助産診断学	4	選択	6セメ													50	1	50	1										100
専門教育科目	助産実践論 I (妊娠・産褥・新生児期)	2	選択	7セメ			1										50	1	50	1										100

																Ī	評 価	項目	1										
										知識	•理解									能力	<ul><li>技能</li></ul>					総合	的な力		
科目区分	授業科目名	単位数	必修・ 選択 区分	開設期	(1 一般教: する知 解	識·理	(2 心身の 境康,発症 防,発症 関理	O VHIBE.	論,看記 本的技 度に関	3) 実践理 護の基 治のと態 する知 理解	(4) 個人と 地域の 題と看: する知	健康問 護に関 職・理	職者間他職種	5) ケアシ と た た た た い た い た い た い た る ら が は ら の ら る ら に り な ら に り は り に り て る り に り に り に り に り に り に り に り に り に り	看護倫する知	6) 『理に関 『識・理 解	(地) き, 新に とり	1) こ基づ 護を計 実践す 東 田解	美践前	2) 保持予 病の回 かわの 計力の知 理解	(根拠) おります (根拠) おります (地) おります (を) はります	3) に基づ 護を計 実践す の展開	<b>美践</b>	(4) )保持増 (病の予 は康の回 いかわる は力の展 関	(1) ・看護倫 対する判 所力	協働す	2) の一員 也者・連携し る能力 長度	(3) 研究能力は び自己研鎖	3よ 科目中の評価 項目の総加重 値
専門教育科目	助産実践論Ⅱ (分娩期基本)	2	選択	7セメ													50	1	50	1									100
専門教育科目	助産実践論Ⅲ (分娩期応用)	2	選択	7セメ													50	1	50	1									100
専門教育科目	助産疾病論	2	選択	6セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1													100
専門教育科目	助産管理	1	選択	7セメ					40	1			40	1	20	1													100
専門教育科目	助産学実習	11	選択	8セメ																	50	1	50	1					100
専門教育科目	学校保健概論	1	選択	3セメ			20	1	20	1	20	1	20	1	20	1													100
専門教育科目	学校保健演習	2	選択	6セメ													50	1	50	1									100

#### 看護プログラムカリキュラムマップ

	ムカリキュフム <sup> </sup>	× ツノ	1年				2年				3年				4年	
学習の成果		前期		<b></b>	1	前期		後期	1	<b></b>		後期		前期		<b>多期</b>
評価項目	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム
	教養ゼミ(◎)	コミュニケーション基礎 I (©)	コミュニケーション基礎Ⅱ(◎)	コミュニケーション基礎Ⅱ (◎)		平和科目(○)										
	大学教育入門(◎)	コミュニケーション I A(◎)	コミュニケーション II A(©)	コミュニケーション II A (◎)												
	コミュニケーション基礎 I (◎)	コミュニケーション I B(◎)	コミュニケーション II B(©)	コミュニケーション II B(©)												
	コミュニケーション I A(◎)	ベーシック外国語(△)	ベーシック外国語(△)	ベーシック外国語(△)												
	コミュニケーション I B(◎)	領域科目(○)	情報活用演習(○)	領域科目(○)												
(1)一般教養に関す る知識・理解	ベーシック外国語(△)	健康スポーツ科目(△)	領域科目(○)	健康スポーツ科目(△)												
	情報・データ科学入門(◎)	ゼロからはじめるプログラミング(○)	健康スポーツ科目(△)													
	領域科目(○)	データサイエンス基礎(○)	医療従事者のための心理学(②)													
	健康スポーツ科目(△)	初修物理学(○)	統計学(〇)													
	ヘルスサイエンスのための基盤数学(〇)		ゼロから始めるプログラミング(〇)													
	初修生物学(〇)															
	解剖生理学 I (③)	解剖生理学 I (◎)	人間発達学(◎)	人間発達学(◎)	微生物学·免疫学(◎)	栄養学(◎)	社会福祉学(◎)	社会福祉学(◎)	Global Health and Current Public Health Issue (Δ)	Global Health and Current Public Health Issue (Δ)		保健政策論(△)		公衆衛生看護学Ⅲ(△)	公衆衛生看護管理(△)	
	地域保健看護学概論(◎)	看護実践学原論(◎)	解剖生理学Ⅱ(◎)	解剖生理学Ⅱ(◎)	栄養学(◎)	病理学(◎)	Introduction to Epodemiology and Population Sciences (△)	甌床生化学(◎)	成人健康障害看護(②)	成人健康障害看護(◎)		助産疾病論(△)				
			母性看護学概論(◎)	リプロダクテイプへルスとセクショ アリティ(◎)	病理学(◎)	臨床薬理学(◎)	老年健康障害看護(◎)	Introduction to Epodemiology and Population Sciences (△)	精神健康障害看護(◎)	精沖健康障害看護(◎)						
(2) 2 2 2 2 2 2 2					臨床病態学Ⅰ(◎)	健康管理論(◎)	小児健康障害看護(◎)	老年健康障害看護(◎)	疫学(△)	疫学(△)						
(2)心身の機能と環境に基づく健康,疾病の予防、発症,治療に関する知識・理解					健康管理論(◎)	保健英語(△)	周産期健康障害看護(◎)	小児健康障害看護(◎)	基礎助産学(△)	保健統計学(△)						
病の予防、光経、足 癒に関する知識・理					保健英語(△)	臨床病態学Ⅱ(◎)	公衆衛生看護学概論(△)	周産期健康障害看護(◎)	地域子育で支援論(△)	公衆衛生看護学Ⅱ(△)						
					小児保健学(◎)	成人看護学摄論(◎)	災害医療と看護(◎)	地域·在宅看護論(③)	保健統計学(△)							
					成人看護学概論(②)	老年看護学概論(◎)	Nursing in Grobal Health(⊚)		公衆衛生看護学 I(△)							
					小児看護学概論(◎)	地域包括ケア論(③)			公衆衛生看護学Ⅱ(△)							
					学校保健概論(△)	精神看護学概論(◎)										
	地域保健看護学概論(◎)	看護実践学原論(◎)	人間発達学(◎)	人間発達学(◎)	成人看護学概論(③)	健康管理論(②)	社会福祉学(◎)	社会福祉学(◎)	成人健康障害看護(②)	成人健康障害看護(②)		保健政策論(△)	看護管理学概論(◎)	公衆衛生看護学Ⅲ(△)	公衆衛生看護管理(△)	
			母性看護学概論(◎)	リプロダクテイプへルスとセクショ アリティ(©)	小児看護学概論(◎)	成人看護学概論(◎)	老年健康障害看護(◎)	老年健康障害看護(◎)	精神健康障害看護(◎)	精沖健康障害看護(◎)		助産疾病論(△)	助産管理(△)			
				,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	小児保健学(◎)	老年看護学概論(◎)	小児健康障害看護(◎)	小児健康障害看護(◎)	基礎助産学(△)	保健統計学(△)						
(3)看護実践理論。 看護の基本的技術。					学校保健概論(△)	地域包括ケア論(◎)	周産期健康障害看護(◎)	周産期健康障害看護(◎)	地域子育で支援論(△)	公衆衛生看護学Ⅱ(△)						
看護の基本的技術。 態度に関する知識・ 理解						精神看護学概論(◎)	チーム医療と医療安全(◎)	地域·在宅看護論(◎)	保健統計学(△)							
17.							災害医療と看護(◎)		公衆衛生看護学 I (△)							
理解							Nursing in Grobal Health(©)		公衆衛生看護学Ⅱ(△)							
							公衆衛生看護学概論(△)									
	地域保健看護学概論(◎)	看護実践学原論(◎)	人間発達学(◎)	人間発達学(◎)	成人看護学概論(③)	健康管理論(②)	社会福祉学(◎)	社会福祉学(◎)	成人健康障害看護(②)	成人健康障害看護(②)		保健政策論(△)	助産管理(△)	公衆衛生看護学Ⅲ(△)	公衆衛生看護管理(△)	
			母性看護学概論(◎)	リプロダクテイプへルスとセクショ アリティ(©)	· 小児保健学(◎)	成人看護学概論(②)	老年健康障害看護(◎)	老年健康障害看護(◎)	精神健康障害看護(◎)	精沖健康障害看護(③)		助産疾病論(△)				
					小児看護学概論(◎)	老年看護学概論(◎)	小児健康障害看護(◎)	小児健康障害看護(◎)	疫学(△)	疫学(△)						
(4)個人と家族、地域の健康問題と看記	L				学校保健概論(△)	地域包括ケア論(◎)	周産期健康障害看護(◎)	周産期健康障害看護(◎)	基礎助産学(△)	保健統計学(△)						
成の健康問題と看記 に関する知識・理解	Į.					精神看護学概論(◎)	災害医療と看護(◎)	地域·在宅看護論(◎)	地域子育で支援論(△)	公衆衛生看護学Ⅱ(△)						
							Nursing in Grobal Health(©)		保健統計学(△)							
							公衆衛生看護学概論(△)		公衆衛生看護学 I(△)							
									公衆衛生看護学Ⅱ(△)							
	地域保健看護学概論(◎)	看護実践学原論(◎)	母性看護学概論(◎)	リプロダクテイプへルスとセクシュ アリティ(©)	成人看護学概論(②)	健康管理論(②)	社会福祉学(©)	社会福祉学(◎)	成人健康障害看護(②)	成人健康障害看護(②)		保健政策論(△)	看護管理学概論(◎)	公衆衞生看護学Ⅲ(△)	公衆衛生看護管理(△)	
					小児保健学(◎)	成人看護学概論(⑤)	老年健康障害看護(◎)	老年健康障害看護(◎)	精沖健康障害看護(◎)	精沖健康障害看護(◎)		助産疾病論(△)	助産管理(△)			
					小児看護学概論(◎)	老年看護学概論(◎)	小児健康障害看護(◎)	小児健康障害看護(◎)	基礎助産学(△)	保健統計学(△)						
(5) ヘルスケアシス・ ムと看護職者間なら	7				学校保健概論(△)	地域包括ケア論(◎)	周産期健康障害看護(◎)	周産期健康障害看護(◎)	地域子育で支援論(△)	公衆衛生看護学Ⅱ(△)						
び他職種との協働に関する知識・理解						精神看護学概論(◎)	チーム医療と医療安全(②)	地域·在宅看護論(◎)	保健統計学(△)							
							災害医療と看護(◎)		公衆衛生看護学 I(△)							
							Nursing in Grobal Health(◎)		公衆衛生看護学Ⅱ(△)							
							公衆衛生看護学概論(△)									
	地域保健看護学概論(◎)	看護実践学原論(◎)	母性看護学概論(◎)	リプロダクテイプへルスとセクシコ アリティ(©)	成人看護学概論(②)	健康管理論(◎)	社会福祉学(®)	社会福祉学(◎)	成人健康障害看護(③)	成人健康障害看護(②)		保健政策論(△)	看護管理学概論(◎)	公衆衛生看護学Ⅲ(△)	公衆衛生看護管理(△)	
					小児保健学(◎)	成人看護学概論(②)	老年健康障害看護(②)	老年健康障害看護(◎)	精神健康障害看護(◎)	精神健康障害看護(◎)		助産疾病論(△)	助産管理(△)			
					小児看護学概論(◎)	老年看護学概論(③)	小児健康障害看護(◎)	小児健康障害看護(◎)	基礎助産学(△)	保健統計学(△)						
(6) 香福倫神/-明社					学校保健概論(△)	地域包括ケア論(◎)	周産期健康障害看護(◎)	周産期健康障害看護(◎)	地域子育で支援論(△)	公衆衛生看護学Ⅱ(△)						
(6)看護倫理に関す る知識・理解						精神看護学概論(◎)	チーム医療と医療安全(②)	地域·在宅看護論(②)	保健統計学(△)							
							災害医療と看護(◎)		公衆衛生看護学 I(△)							
							Nursing in Grobal Health(©)		公衆衛生看護学Ⅱ(△)							
		1					公衆衛生看護学概論(△)									
		-1	1	1	1	ı.			1	1	1	1	II.		1	

mmo.tm	1年			2年				3年				4年				
学習の成果	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
評価項目	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム
					看護技術学·基礎演習(◎)	看護技術学・基礎演習(◎)	看護技術学·応用演習(◎)	看護技術学・応用演習(◎)	小児看護方法演習(◎)	小児看護方法演習(◎)		助産診断学(△)	地域·在宅看護方法演習(③)	公衆衛生看護方法演習(△)	保健活動評価演習(△)	
(1)根拠に基づき、 看護を計画的に実践					ヘルスアセスメント(®)	基礎看護学実習 I (◎)	母性看護方法演習(◎)	母性看護方法演習(◎)	成人看護方法演習(◎)	成人看護方法演習(②)		学校保健演習(△)	助産実践論 I (妊娠・産梅・新生児期) (△)	助産実践論 I (妊娠・産弊・新生児期)(△)		
する能力の知識と理解								看護診断方法論演習(◎)	臨床看護シミュレーション演習 (◎)	精神看護方法演習(◎)			助産実践論Ⅱ(分娩期基本)(△)	助産実践論Ⅱ(分娩期基本)(△)		
								基礎看護学実習Ⅱ(◎)	老年看護方法演習(◎)				助産実践論Ⅲ(分娩期応用)(△)	助産実践論Ⅲ(分娩網応用)(△)		
					看護技術学·基礎演習(◎)	看護技術学・基礎演習(◎)	看護技術学·応用演習(◎)	看護技術学·応用演習(◎)	小児看護方法演習(◎)	小児看護方法演習(◎)		助産診断学(△)	地域・在宅看護方法演習(③)	公衆衛生看護方法演習(△)	保健活動評価演習(△)	
(2)健康の保持増 進,疾病の予防,健 康の回復にかかわる					ヘルスアセスメント(©)	基礎看護学実習 I (◎)	母性看護方法演習(◎)	看護診断方法論演習(◎)	成人看護方法演習(③)	成人看護方法演習(②)		学校保健演習(△)	助産実践論 I (妊娠・産褥・新生児期) (△)	助産実践論 I (妊娠・密博・新生児類)(△)		
実践能力の知識と理解								母性看護方法演習(◎)	老年看護方法演習(◎)	精神看護方法演習(◎)			助産実践論Ⅱ(分娩期基本)(△)	助産実践論Ⅱ(分娩期基本)(△)		
, m								基礎看護学実習Ⅱ(◎)					助産実践論Ⅲ(分娩期応用)(△)	助産実践論Ⅲ(分娩期応用)(△)		
6P								地域·在宅看護実習 I (③)	老年看護学実習(退院支援・長 類ケア)(©)	老年看護学実習(退院支援・長期ケア)(©)	母性看護学実習(◎)	母性看護学実習(◎)	成人看護学実習(慢性期)(③)	成人看護学実習(慢性期)(◎)	助産学実習(△)	公衆衞生看護学実習Ⅱ(△)
n h											成人看護学実習(急性期・クリ ティカルケア)(③)	成人看護学実習(急性期・クリ ティカルケア)(®)	公衆衛生看護学実習 I (△)	地域·在宅看護実習Ⅱ(◎)	公衆衛生看護学実習Ⅱ(△)	
技 (3)根拠に基づき、											リハビリテーション看護実習(◎)	リハビリテーション看護実習(◎)	公衆衛生看護学実習Ⅱ(△)	公衆衛生看護学実習 I (△)		
能 看護を計画的に実践 する能力の展開											小児看護学実習(◎)	小児看護学実習(◎)		公衆衛生看護学実習Ⅱ(△)		
											老年看護学実習(◎)	老年看護学実習(◎)				
												精神看護学実習(◎)				
(4)健康の保持増								地域·在宅看護実習 I (⑥)	老年看護学実習(退院支援・長 類ケア)(◎)	老年看護学実習(退院支援・長 期ケア)(②)	母性看護学実習(◎)	母性看護学実習(◎)	成人看護学実習(慢性期)(③)	成人看護学実習(慢性期)(◎)	助産学実習(△)	公衆衞生看護学実習Ⅱ(△)
進、疾病の予防、健 康の回復にかかわる											成人看護学実習(急性期)(③)	成人看護学実習(急性期)(◎)	公衆衛生看護学実習 I (△)	地域·在宅看護実習Ⅱ(©)	公衆衛生看護学実習Ⅱ(△)	
実践能力の展開											成人看護学実習(回復期・クリニ カルケア)(〇)	成人看護学実習(回復期・クリニ カルケア)(©)	公衆衛生看護学実習Ⅱ(△)	公衆衛生看護学実習 I (△)		
*利用者:看護実践 の場における看護											小児看護学実習(◎)	小児看護学実習(◎)		公衆衞生看護学実習Ⅱ(△)		
サービスの利用者。 患者、相談者、地域											老年看護学実習(治療期・緩和 ケア)(◎)	老年看護学実習(治療期・緩和 ケア)(◎)				
住民など包含する。												精神看護学実習(◎)				
(1)生命・看護倫理									カウンセリング演習(△)				総合実習(◎)	総合実習(◎)		
に対する判断力														多職種間連携教育(△)		
(2) チームの一員とし 松 て他者・多職種と連									カウンセリング演習(△)				総合実習(◎)	総合実習(◎)		
合 携し協働する能力と 態度														多職種間連携教育(△)		
的 な									カウンセリング演習(△)				総合実習(◎)	総合実習(◎)		
カ (3)研究能力および 自己研鑽力													研究方法論(◎)	多職種間連携教育(△)		
													Independent Study(△)	Independent Study(△)	Independent Study(△)	Independent Study(△)
													卒業研究(◎)	卒業研究(◎)	卒業研究(◎)	卒業研究(◎)
(491)	数卷数音科目	専門基礎科目	専門科目	専門科目(公衆衛生·助産)	水幸區物	(◎)必修料目	<ul><li>(○)選択必修科目</li></ul>	(△)選択科目	1			I .				

## 看護学プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線番 号	研究室	メールアドレス		
新福 洋子	教授	5345	国際保健看護学	yokoshim@hiroshima-u.ac.jp		
折山 早苗	教授	5355	基礎看護開発学	oriyama@hiroshima-u.ac.jp		
森山 美知子	教授	5365	成人看護開発学	morimich@hiroshima-u.ac.jp		
祖父江 育子	教授	5370	小児看護開発学	sobue@hiroshima-u.ac.jp		
田邊 和照	教授	5380	周手術期・クリティカルケア開発学	ktanabe2@hiroshima-u.ac.jp		
中谷 久恵	教授	5390	地域保健看護開発学	hinakata@hirosima-u.ac.jp		
川﨑 裕美	教授	5395	地域·学校看護開発学	khiromi@hiroshima-u.ac.jp		
小澤 未緒	准教授	5432	基礎看護開発学	ozawamio@hiroshima-u.ac.jp		
菅井 敏行	准教授	5421	地域保健看護開発学	tsugai@hiroshima-u.ac.jp		
恒松 美輪子	講師	5346	健康情報学	tsunematsu@hiroshima-u.ac.jp		
藤本 紗央里	講師	5361	助産・母性看護開発学	fsaori@hiroshima-u.ac.jp		
寺本 千恵	講師	5366	周手術期・クリティカルケア開発学	terachie@hiroshima-u.ac.jp		
陳 三妹	助教	5377	国際保健看護学	chens@hiroshima-u.ac.jp		
新宮 美穂	助教	5347	基礎看護開発学	mshinguu@hiroshima-u.ac.jp		
村上 真理	助教	5352	助産·母性看護開発学	muromari@hiroshima-u.ac.jp		
澤渡 浩之	助教	5356	周手術期・クリティカルケア開発学	sawatari@hiroshima-u.ac.jp		
藤田 麻理子	助教	5397	地域保健看護開発学	ma-fujita@hiroshima-u.ac.jp		
山崎 智子	助教	5397	地域·学校看護開発学	morisato@hiroshima-u.ac.jp		

※「082-424-(内線番号4桁)とすれば、直通電話となります。

(霞:082-257- (内線番号4桁)) (東千田:082-542- (内線番号4桁))